

友の会通信

団体見学だより

しょうけい館では、昨年度はコロナ禍による休止期間もあったため例年より減少し、三二団体にご来館いただきました。今年度におきまして、ご来館の方が満足いただけるよう職員一同、館運営に取り組んで参ります。

【団体見学の感想】

戦争当時のさまざまな歴史的資料を見学することができ、非常に良い勉強となりました。特に二階にあった野戦病院のジオラマや、戦場での受傷病や治療、本国への搬送手段などの展示により、戦争当時の衛生状況を知ることができました。

また今回は一階での証言映像シアターで、実際に戦争を経験された軍医の方のお話を映像を通して聴くことができ、当時の最前線での治療や医薬品の補給状況がいかに厳しいものであったのかを知ることができ、とても良い勉強になりました。

(二〇代男性)



見学の様子



語り部講話の様子

来館者の声

◆二階のジオラマの迫力が素晴らしく、当時の悲惨な現状や兵士の苦痛が生々しく描かれた展示品だと思いました。音声も豊富で、兵士の心情のみならず衛生兵や、当時の立場、当時の状況が分かる兵士の声など多くの視点から見えてくる病院の状況に、改めて戦争の姿を感じた気がします。戦傷病者については、今日初めて詳しく知りましたが、多くの資料が展示されていて十分興味を惹かれる内容でした。

(一〇代男性)

◆戦傷病者の方々の当時の体験や苦悩、そして帰国後の生活といった貴重な記録の数々を拝見し、学ぶ事が出来、非常にためになりました。現代の平和な時代に生まれ育った身である以上過去から学ぶ事は多く、次の世代へと引き継いでいくという使命を背負ったしょうけい館の在り方には感銘を受けました。

(二〇代女性)

証言映像収録のお願い

証言映像は、戦中・戦後の労苦を伝えるための貴重な資料となります。引き続き当館では、証言映像の収録を進めて参りますので、年齢、地域にかかわらず、戦傷病者とそのご家族でご協力頂ける方は、ぜひ当館までお知らせ下さい。

「友の会通信」は毎年二回の発行を予定しております。

暑い日が続きますが、皆様におかれましてはくれぐれもお体にはご自愛ください。



発行／しょうけい館
戦傷病者史料館
〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-13
ツカキスクエア九段下
電話 03 (3234) 7821
FAX 03 (3234) 7826

友の会通信

第14号

残暑の候、まだまだ暑さは続いておりますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。長引くコロナ禍ですが、お変わりなくお元気でお過ごしのこと、何よりと存じます。

毎日、テレビでコロナ患者数が発表されていますが、流行の終焉がなかなか見えず、本当に心配です。皆さまも、暑さとコロナ禍の二重苦で、毎日大変と思いますが、十分気をつけて過ごしてください。

高齢者はあまり暑さを感じないのではないかと言われますが、今年の暑さには、高齢者の私達も本当に閉口しています。息子や娘に、電気代を気にせずエアコンを使いなさいといわれながら、エアコンのお世話になっております。エアコンのおかげで、毎日涼しい環境で生活しています。有難いことです。

しょうけい館も、昨年度は、ミニ展示「四名の戦傷病者のエピソード」、春の企画展「残された言葉や声をたずねて」、本年度はミニ展示「失明戦傷病者の労苦」などを実施しております。

また、夏の企画展「戦場の軍医と衛生兵」、平和祈念展示資料館・昭和館と連携した「三館めぐりスタンブラリー」、「三館連携企画展（神奈川県で開催）」などを予定しておりますので、皆さま、ご関心のある方をお誘いの上、ご観覧下さい。

令和四年八月

しょうけい館 館長 原 剛

「残された言葉や声をたずねて」

会期 令和四年三月一五日（火）～五月八日（日）

本展では、戦傷病者が自身の体験を書籍や手記に綴ったり、映像で当時のことを語ったりした資料の中から印象的な言葉や声を紹介しました。

戦地での過酷な体験を綴った「戦地での思い」、戦後も続く精神的、肉体的な痛みを綴った「戦後の労苦」、人生を振り返った心境を語った「苦難を乗り越えて」の三つの場面に分けて戦傷病者の言葉や声とともに関連する資料を展示しました。

また、紹介した戦傷病者を記録した証言映像をシアター内で上映し、来館者が彼らの言葉や声に耳を傾け、平和の在り方を考えられるような展示にしました。

【来場者の感想】

企画展を見た後に証言映像を見ました。「不自由であるけれど、不幸ではない」。戦争を体験し、左腕を負傷したにもかかわらず、とても明るくしゃべるのがとても素敵でグッと来しました。



展示風景

夏の企画展 開催中

「戦場の軍医と衛生兵」

会期 令和四年七月一二日（火）～九月一日（日）

本展は、先の大戦において前線での任務にあたった陸軍の軍医と衛生兵の医療活動を伝えるものです。前線での軍医と衛生兵の主な任務は、止血をはじめとした応急処置、重傷者の後送などがあり、負傷兵を救護するために一刻を争うものでした。部隊の作戦行動中は、要所に包帯所、野戦病院を設けて後送されてきた負傷兵の処置や治療にあたりました。

戦況が悪化するに従って、医薬品や物資が不足し、後方からの補給も困難となっていく中で、軍医は十分な薬品や医療器具がないまま手術を行うこともありました。前線勤務では戦闘に巻き込まれて傷を負ったり、看護中に感染症にかかって患者となってしまうたりすることもありました。このような前線における任務の体験を、軍医や衛生兵本人の証言、手記から紹介します。



野戦病院の様子



日露戦争の摘出弾

展示品は、軍医、衛生兵の職務に関する資料のほか、戦場に設けられた包帯所、野戦病院や搬送の様子を描いたスケッチ、医薬品などです。当館ホームページでも展示を写真入りで詳しく紹介しておりますので、遠方でお越しになれない方は是非ホームページでご覧頂きたい思います。



メンタ酒



包帯包



日支事変の摘出弾



仮包帯所の様子

ミニ展示 報告

第三十回ミニ展示「四名の戦傷病者のエピソード」

会期 令和四年一月五日（水）～三月一日（日）

本展では、受傷した身体の部位が異なる四名の戦傷病者に焦点を当てました。各人が体験された戦中・戦後の労苦についてご寄贈いただいた資料とともに紹介しました。

傷を受けた体の部位や病気の種類によっても、その労苦は人それぞれにさまざまなものがありました。戦傷病者一人ひとりが体験された戦中・戦後の労苦をひもとく展示となりました。



展示の様子



展示資料

第三一回ミニ展示「失明戦傷病者の労苦」

会期 令和四年五月一〇日（火）～七月一〇日（日）

本展では、戦中の失明傷痍軍人に対する援護施策や、戦後の国立光明寮の解説を通し、失明戦傷病者が社会復帰に向けてたどった道のりを紹介しました。関連する展示資料として、按摩術試験の合格証や戦傷失明杖などを展示しました。

また、眼の受傷によって失明すると、どのような労苦を負うことになるのか、実際の体験者の証言と合わせて紹介しました。関連する展示資料として、一人の戦傷病者が年代ごとに作り替えていた複数の義眼を展示しました。



展示の様子



展示作業風景

しょうけい館ホームページ 企画展特設サイトの紹介
来館せずとも企画展をご覧いただけるよう、特設ページを設けております。左記のURLまたはQRコードよりご覧いただけますので是非ご利用ください。

夏の企画展 (<https://www.shokeikan.go.jp/kikaku/kotoba-koe/>)

kikaku/kotoba-koe/

夏の企画展 (<https://www.shokeikan.go.jp/kikaku/kikaku.html>)

kikaku/kikaku.html

資料寄贈のお願い

戦傷病者の皆様に関する資料（写真、回想記、軍装品、摘出弾、義肢、受傷や恩給に関する文書等）、奥様やご家族に関する資料（日記、写真等）、傷痍軍人会、妻の会に関する資料（会旗、名簿等）をお持ちの方からのご連絡を待ちしております。

資料は館で大切に保管し、継承事業に活用させていただきます。



春の企画展 開催のご案内

「戦傷病者を支えた女性たち」

会期 令和五年三月一日(火)～六月二五日(日) 予定

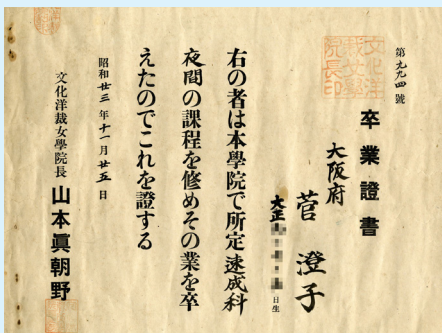
戦争だけがを負ったり病にかかったりした戦傷病者は、さまざまな労苦を抱えながらも、それを乗り越えて生きてきました。戦傷病者が労苦を乗り越えることができたのは、多くの人の支えによるものであり、中でも女性たちは、戦中・戦後を通して非常に重要な役割を担ってきました。

例えば戦時中、命の危険にさらされながらも傷病兵の救護・看護にあたり、多くの人の命を救った看護婦の活躍がありました。また、戦傷病者の妻は、身体にハンディを抱えながら生活する夫を支え、時には自らが一家の稼ぎ手となって働いた人もいました。このように戦傷病者と関りがある女性はいくつものさまざまな労苦を戦傷病者とともに乗り越えてきました。

本展では、戦傷病者を支え続けた女性に焦点を当て、入院生活を支えた軍の看護婦や、彼らに寄り添いながら生きてきた妻の姿を紹介します。



看護衣



洋裁学校の卒業証書

友の会通信 第15号

向春の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

社会に大きな影響を与えているコロナ禍も、はや三年が過ぎました。これまで、しょうけい館の活動にも様々な影響がありましたが、昨年は夏の企画展や神奈川県で地方展を開催したほか、子ども霞が関見学デーにオンラインで参加するなど、これまで休止を余儀なくされていた活動も再開することができました。

夏の企画展の開催期間中は、特に多くのご来館をいただきました。ウクライナとロシアの間で起こった戦争は、多くの耳目を集めております。戦争に対する人々の関心が高まるにつれ、戦傷病者とそのご家族の労苦を継承する当館の役割は、ますます重要なものになっていると実感しております。館内で実施しているアンケートの感想では、若い世代からも「労苦を想い次の世代へと語り継いで行きたい」との声が聞かれるようになりました。『来館者の声』として今号でも一部を掲載しておりますので、ご覧頂ければ幸いです。

当館としては、開館以来続けてきた、戦傷病者とそのご家族が体験した労苦を一人でも多くの来館者の方々に伝えていくという活動について、益々懸命に励んでまいり所存です。本年もより一層のご支援を賜りますよう職員一同、心よりお願い申し上げます。

令和五年二月

しょうけい館 館長 原 剛

来館者の声

◆以前から語り部に興味があり、大学生になったらやってみたいと思っていましたが、しょうけい館の展示を見たり、語り部の方の講話を聞いて、その思いが一層強くなりました。今度は「戦争」というものを私たちの世代が、さらに次の世代へと語り継いでいきます。ありがとうございました。(二〇代女性)

◆戦傷病者とその家族の苦悩についてよく理解できました。一階の平和へのメッセージを見て、わが子が再び戦争の惨禍に進まないよう思いを託しました。苦労についてよく分かり、思いをはせられる展示であったと思いました。(二〇代男性)

◆見学を通して、戦争を経験した人々のその後の苦労や思い、そして何よりも戦争の悲しさを学ぶことが出来た。二度と戦争をおこさないためにも、ここで感じた思いを大切にしながら、平和の大切さを広めていきたいと思う。(一〇代男性)

証言映像収録のお願い

証言映像は、戦中・戦後の労苦を伝えるための貴重な資料となります。引き続き当館では、証言映像の収録を進めて参りますので、年齢、地域にかかわらず、戦傷病者とそのご家族でご協力頂ける方は、ぜひ当館までお知らせ下さい。

「友の会通信」は毎年二回の発行を予定しております。

まだまだ寒さが残っております、皆様くれぐれもお体ご自愛ください。



発行/しょうけい館
戦傷病者史料館
〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-13
ツカキスクエア九段下
電話 03 (3234) 7821
FAX 03 (3234) 7826

夏の企画展 開催報告

「戦場の軍医と衛生兵」

令和四年度夏の企画展は「戦場の軍医と衛生兵」をテーマに、七月一二日から九月一日まで開催しました。

軍医や衛生兵であった方々の体験記を中心として構成し、包帯包やガーゼなどの装備品、メスや聴診器などの医療器具、ヨードチンキやキニーネの医薬品などの実物資料を展示しました。また、小倉医療センター(元小倉陸軍病院)から寄贈された摘出弾を一五箱展示しました。

夏休み期間中は、大人の方は勿論、大学生や小学校の児童まで幅広い年齢層の来館者が訪れていました。「負傷兵を助ける立場の方の体験を知ることができてよかった」、「衛生部員は後方の任務だと思っていたが、前線で命がけだったことを初めて知った」などの感想が寄せられました。

若い世代に皆様の戦争体験を伝えるためにも、戦時中や戦後の療養中に使われていた資料を更に寄贈頂きたいと思っております。ご連絡をお待ち申し上げます。



会場の様子



摘出弾(小倉医療センター寄贈)

地方展 開催報告

「戦傷病者の労苦を伝える神奈川展」 水木しげるが伝えた戦争体験」

会期 令和四年十一月一日（金）～十一月二十六日（土）

神奈川県横浜市の横浜市民ギャラリーあざみ野にて、昭和館、平和祈念展示資料館と連携して展示会を開催しました。

今回の展示では、生誕一〇〇周年を迎えた漫画家・妖怪研究家として広く知られている水木しげる（本名：武良茂）さんの過酷な戦争体験や戦後の労苦を中心にその半生を紹介しました。激戦地で左腕を失い、生死をさまよった時の様子や、戦後の苦しい生活状況など、水木さん自身の絵と文を展示するとともに、水木さんが戦争体験を語った証言映像も上映しました。

また、地方展では初めてとなる首都圏での開催であったので、九段下のしょうけい館にも足を運んでもらえるように、水木しげるさんの展示以外にも、常設展示室の紹介や館を象徴する資料である義手、義足の展示、さらに証言映像の上映などを行い、ご来場された方にさまざまな視点から興味を持っていただけるように展示をしました。

～来場者の感想～

◆証言映像で話を聞くことができ、悲惨さが伝わってきた。水木さんの漫画やスケッチからも大変な時代があって現代があることを改めて知った。

◆たいへんな思いをされてきた中で戦傷病者とそのご家族の思いが伝わってくるような気がした。

三館連携スタンプラリー実施報告

令和四年七月一六日～九月四日まで、戦中・戦後の労苦について来館者の理解を深め次世代への継承を図るため、平和祈念展示資料館、昭和館と連携し、三館のスタンプをすべて集めると、オリジナルグッズがもらえるスタンプラリーを実施しました。期間中は多くの方々に参加いただけたため、今後も継続して活動持续开展していく所存です。



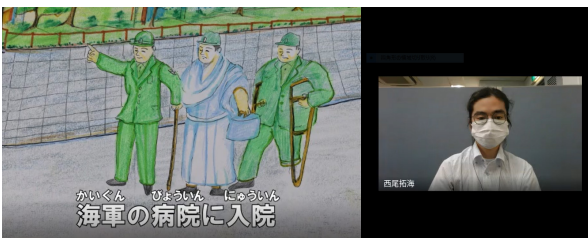
紹介チラシ



オリジナルグッズ

こども霞が関見学デーへの参加報告

令和四年八月三日と四日の二日間、霞が関の各省庁が子供達を対象に事業の紹介をするイベントに参加しました。当館は「絵やモノを見て学ぶ「戦争」体験～戦争で傷ついたあ



オンラインプログラムの様子

令和五年度は宮城県にて、昭和館、平和祈念展示資料館と合同で展示会を開催する予定です。多くの方々にご来場いただけるよう準備を進めて参ります。



会期中の様子



展示資料『ラバウル戦記』



会期中の様子



軍帽・病院着



展示解説

ミニ展示 報告

第三二回ミニ展示 「軍靴―軍隊生活と行軍の労苦―」

令和四年九月一三日から一二月二七日まで、ミニ展示を開催しました。軍隊生活で最も身近な装備品である軍靴を通して、靴の役割と足にまつわる労苦を紹介しました。熱中症や靴傷などの行軍病、偏平足や疲労骨折などの足に関する諸症状などを、寄贈された軍靴や写真とともに展示しました。



軍靴（編上靴）

第三三回ミニ展示 「絵で伝える戦争体験」

年が開けた令和五年一月五日から三月一二日は、上段の「こども霞が関見学デー」の記事で紹介した、柳田幸敏さんの絵や使用していた道具などを展示しました。柳田さんは、徴兵検査を受けて出征し、戦闘で怪我をして、日本で療養生活を送り、終戦を迎えるまでの様々な体験を絵として描いた方です。当館には約三〇〇枚もの絵を寄贈して下さい、全て紹介したい所ですが、今回は一八枚に絞って展示を致しました。



展示風景

資料寄贈のお願い

戦傷病者の皆様に関する資料（写真、回想記、軍装品、摘出弾、義肢、受傷や恩給に関する文書等）、奥様やご家族に関する資料（日記、写真等）、傷痍軍人会、妻の会に関する資料（会旗、名簿等）をお持ちの方からのご連絡を待ちしております。

資料は館で大切に保管し、継承事業に活用させていただきます。